

- 問1 4世紀から6世紀にかけて朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、仏教のほか、機織り、土木、金属加工といった大陸の進んだ技術を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 防人 3. 渡来人 4. 御家人
- 問2 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 八角墳
- 問3 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 中大兄皇子 3. 卑弥呼 4. ワカタケル大王
- 問4 5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。
2. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
3. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。
4. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
- 問5 古墳時代の中期ごろ、朝鮮半島から伝えられた技術によってつくられるようになった、高温の窯で焼かれた硬質の灰色の土器を何といいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 縄文土器 2. 須恵器 3. 弥生土器 4. 土師器
- 問6 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
1. 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと
2. 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと
3. 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと
4. 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと
- 問7 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
1. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
2. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
3. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
- 問8 古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものとして適切なものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. 班田収税法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため
2. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため
3. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため
4. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため
- 問9 4世紀ごろ、近畿地方の有力な豪族たちが中心となって組織した大和政権において、各地の豪族を従えていた最高権力者の称号は、当時何と呼ばれていましたか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 執権 2. 天皇 3. 将軍 4. 大王（おおきみ）
- 問10 埼玉県にある稲荷山古墳からは、表面に文字が刻まれた金錯銘鉄剣が出土しました。この鉄剣に刻まれている「ワカタケル大王」という人物は、当時の中国の歴史書に記されている「倭の五王」のうちの誰を指すとされていますか。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
1. 武（ぶ） 2. 済（せい） 3. 興（こう） 4. 珍（ちん）
- 問11 4世紀から5世紀にかけて、朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、さらには須恵器の製作技術や鉄器の製造といった高度な文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 部民 2. 遣唐使 3. 防人 4. 渡来人
- 問12 古墳時代の東アジアにおける対外関係と文化の流入について、その背景と内容を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. この時期の日本は大陸から完全に孤立しており、大陸の文化が流入し始めたのは平安時代以降である。
2. 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。
3. 中国大陸の南朝とのみ交流し、朝鮮半島の高句麗や新羅とは敵対関係にあったため、半島由来の文物は存在しない。
4. 大陸との交流は小規模な民間貿易に限られており、国家間の正式な外交や技術導入は行われていなかった。
- 問13 400年頃に倭王が中国へ使いを送っていた記録がある時代から、平城京へと遷都されるまでの期間にかけて、日本列島では大陸との交流が盛んに行われました。この時期の文化や技術の伝来について述べた文として、正しいものを選択してください。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
1. 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。
2. 大陸から最新の農業技術が伝わり、脱穀のための千歯扱きが全国に普及した。
3. 大陸との交流を通じて、源氏物語や枕草子に代表される国風文化が開いた。
4. 中国から大量の銅銭が流入したことで、須恵器に代わって貨幣経済が急速に発達した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 渡来人	4世紀から6世紀にかけて、朝鮮半島の戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは渡来人と呼ばれ、大陸の高度な技術や文化を日本へもたらしました。彼らが伝えた漢字は、後の公文書作成の基礎となり、仏教の伝来は日本の文化や政治のあり方に大きな影響を与えました。
問2	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問3	答え 4 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問4	答え 2 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問5	答え 2 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。
問6	答え 2 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと	埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかったことは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。
問7	答え 2 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問8	答え 4 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓造ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問9	答え 4 大王（おおきみ）	古墳時代の大和政権（ヤマト王権）において、近畿地方を中心とした支配を広げた最高権力者は「大王」と呼ばれました。この称号は、7世紀後半ごろから「天皇」という言葉が定着するまで、中国の王朝との外交や国内の統治において用いられました。将軍や執権は武家政権の役職であり、時代の異なる用語です。
問10	答え 1 武（ぶ）	稲荷山古墳から出土した鉄剣に記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」は、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場する倭王「武」と同一人物であると考えられています。武は、日本の記紀に登場する雄略天皇にあたるとされています。
問11	答え 4 渡来人	朝鮮半島における戦乱や政治的変動を背景に、日本列島へ移り住んだ人々を指します。彼らがもたらした漢字は記録手段として、儒教は政治理念として、また須恵器や鉄器の製作技術は人々の生活や軍事力を向上させる大きな力となりました。ヤマト王権はこれらの人々を組織に組み込むことで、国家の基盤を固めていきました。
問12	答え 2 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。	古墳時代の日本（倭）は、朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、そして中国の諸王朝と政治的・経済的な結びつきを強めていました。この交流を通じて、大陸の進んだ技術や文化が日本列島へもたらされました。具体的には、乗馬の風習とともに伝えられた「馬具」や、高度な鑄造技術による「銅製水瓶」などが各地の有力者の古墳に副葬されており、これらは当時の対外関係の重要性を物語る重要な資料となっています。
問13	答え 1 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。	古墳時代の5世紀前後から、朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ「渡来人」は、当時の日本に存在しなかった高度な技術や文化を伝えました。これには、須恵器の製作技術のほか、機織り・金属工芸、さらには漢字や儒教、そして後の飛鳥文化の基盤となる仏教などが含まれます。選択肢にある「国風文化」は平安時代中期、「千歯扱き」は江戸時代の特色であり、この時期の出来事とは一致しません。

- 問1 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島から日本列島へ移り住み、大陸の高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 遣隋使 | 2. 渡来人 | 3. 御家人 | 4. 防人 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問2 5世紀初めから約1世紀の間にわたって行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った | 2. 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている | 3. 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した | 4. 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている |
|--|---|---|--|
- 問3 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陆から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。 (2026年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 縄文人 | 2. 防人 | 3. 弥生人 | 4. 渡来人 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問4 ヤマト王権の王たちが「倭の五王」として中国の南朝へ繰り返し使節を送り、当時の国際社会において自らの地位を誇示しようとした主な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|---|
| 1. 大陸から稲作の技術を導入し、国内の食料生産を安定させるための指導を仰ぐため | 2. 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため | 3. 最澄などの僧を派遣し、仏教を日本へ正式に導入するための許可を得るため | 4. 坂上田村麻呂を派遣して東北地方を制圧するために、強力な武器の支援を求めるため |
|--|---|---------------------------------------|---|
- 問5 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。 | 2. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。 | 3. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 | 4. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。 |
|---|---|--|---|
- 問6 大阪府堺市に位置する、全長約486mにおよぶ日本最大の前方後円墳の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------|
| 1. 三内丸山遺跡 | 2. 吉野ヶ里遺跡 | 3. 登呂遺跡 | 4. 大仙古墳 |
|-----------|-----------|---------|---------|
- 問7 古代の日本において、ヤマト政権が朝鮮半島諸国との外交や軍事活動を通じて、他勢力に対し優位に立つために最も獲得を重視した資源はどれか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|----------------|---------------------|-----------------|
| 1. 権威を象徴するための金印や銅鏡 | 2. 貨幣の原料となる金や銀 | 3. 外交の儀礼に用いられる仏教の経典 | 4. 武器や農具の材料となる鉄 |
|--------------------|----------------|---------------------|-----------------|
- 問8 縄文時代と古墳時代の出土品の違いについて説明した文として、最も適切なものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。 | 2. 鉄剣や銅鏡は縄文時代から用いられ、土偶は古墳時代になって権力の象徴として副葬された。 | 3. 埴輪は縄文時代の集落跡から多く出土し、土偶は古墳時代の豪族の墓から出土する。 | 4. 土偶も埴輪もどちらも古墳時代の副葬品であり、大仙古墳などの大型古墳から出土する。 |
|--|---|---|---|
- 問9 4世紀から5世紀にかけて、朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、漢字や儒教、さらには須恵器の製作技術や鉄器の製造といった高度な文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 防人 | 2. 遣唐使 | 3. 渡来人 | 4. 部民 |
|-------|--------|--------|-------|
- 問10 古墳時代の中期ごろ、朝鮮半島から伝えられた技術によってつくられるようになった、高温の窯で焼かれた硬質の灰色の土器を何といいますか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1. 土師器 | 2. 須恵器 | 3. 縄文土器 | 4. 弥生土器 |
|--------|--------|---------|---------|
- 問11 古墳時代の大仙古墳やその出土品について述べた文章として、正しいものを1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 大仙古墳からは、副葬品として縄文時代と同じ土偶が出土している。 | 2. 大仙古墳は弥生時代に造られた日本最大級のお墓である。 | 3. 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。 | 4. 大仙古墳などの副葬品には金属器は含まれず、土器のみが納められた。 |
|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
- 問12 世界文化遺産にも登録されている、大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」について述べた文として、正しいものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. すべて直径10メートル程度の小さな円墳のみで構成された、庶民のための墓地群である。 | 2. 仏教が伝来した後に、聖徳太子の命令によって各地の寺院の隣に作られたものである。 | 3. 東北地方から九州地方にかけての全国各地から、有力な豪族の遺骨を集めて埋葬した場所である。 | 4. 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。 |
|--|--|---|--|
- 問13 渡来人が日本列島にもたらした技術や文化のうち、当時のヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、他国との交渉を行う上で、特に記録や伝達の手段として不可欠となったものはどれか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-----------|-------|-------|
| 1. 須恵器の製作技術 | 2. 機織りの技術 | 3. 漢字 | 4. 仏教 |
|-------------|-----------|-------|-------|
- 問14 熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀と、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、いずれも「ワカタケル大王」の名が刻まれていました。この事実から推測される、5世紀ごろの大和政権の勢力範囲に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 大和政権の勢力は、近畿地方とその周辺の非常に狭い範囲に限定されていた。 | 2. 大和政権の勢力は、大陸の影響を強く受けていた九州地方のみに限定されていた。 | 3. 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。 | 4. 大和政権の勢力は、東北地方から九州南部に至る日本列島のほぼ全域を支配していた。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、4世紀から7世紀頃にかけて日本列島へ移住した人々です。彼らは大和政権（ヤマト王権）に仕え、漢字、儒教、仏教のほか、須恵器の製作技術や土木、養蚕、機織りなどの高度な技術を伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。
問2	答え 4 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている	5世紀、ヤマト王権は当時の中国の南朝（宋など）へ朝貢を行っていました。中国の歴史書には、讀・珍・済・興・武という5人の王が記録されており、彼らが軍事的な称号や政治的地位を求めていたことが記されています。他の選択肢は、3世紀の邪馬台国、7世紀の遣隋使、あるいは7世紀以降の遣唐使に関する内容であり、時代背景が異なります。
問3	答え 4 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問4	答え 2 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島の高句麗、百濟、新羅などが勢力を争っていました。ヤマト王権は、中国の皇帝から「安東大將軍」といった軍事的な指揮権を含む称号を授かることで、朝鮮半島南部における自国の影響力を国際的に正当化しようとした。これは、当時の日本が朝鮮半島の鉄資源や先進技術を確保するために、外交的な優位性を必要としていたという背景に基づいています。
問5	答え 3 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問6	答え 4 大仙古墳	5世紀頃に築造されたこの墳墓は、当時の近畿地方を中心とした勢力のリーダーである「大王（おおきみ）」の墓と考えられています。前方後円墳とは、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状を持つ古墳であり、百舌鳥古墳群の中でも最大の規模を誇ります。
問7	答え 4 武器や農具の材料となる鉄	当時の日本列島では鉄の原料を十分に自給できず、朝鮮半島からの供給に依存していました。鉄は強力な武器を作るだけでなく、開墾や土木作業に不可欠な農具の材料でもあったため、鉄を安定確保することは、軍事力と農業生産力の両面において政権の基盤を固めるために極めて重要でした。
問8	答え 1 埴輪は古墳時代に古墳の表面や周囲に並べられたが、土偶は縄文時代に祈りや魔よけのために作られた。	埴輪は古墳時代に造られた古墳に並べられた土製品ですが、土偶は縄文時代に魔よけや豊かな収穫などを祈るために作られたものです。このように、作られた時代や使用目的が異なります。
問9	答え 3 渡来人	朝鮮半島における戦乱や政治的変動を背景に、日本列島へ移り住んだ人々を指します。彼らがもたらした漢字は記録手段として、儒教は政治理念として、また須恵器や鉄器の製作技術は人々の生活や軍事力を向上させる大きな力となりました。ヤマト王権はこれらの人々を組織に組み込むことで、国家の基盤を固めていきました。
問10	答え 2 須恵器	須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から渡来した技術者によって伝えられました。従来の日本で見られた野焼きの土器とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を用いることで1000度以上の高温で焼き上げることが可能となり、硬くて水を通しにくい性質を持っています。
問11	答え 3 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。	大仙古墳は古墳時代に造られた日本最大の前方向後円墳であり、その周囲には埴輪が並べられました。土偶は縄文時代の遺物であり、古墳の副葬品には銅鏡や鉄剣などの金属器も含まれます。
問12	答え 4 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。	百舌鳥・古市古墳群は、現在の大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市に広がる古墳群です。4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の王権（ヤマト政権）の王たちの墓として築かれました。
問13	答え 3 漢字	文字を持たなかった当時の日本において、渡来人がもたらした漢字は極めて重要な役割を担いました。ヤマト政権は、渡来人の子孫たちを「史（ふひと）」などの役職に就け、朝廷の記録作成や、中国・朝鮮半島の諸国との外交文書の作成に当たらせました。これにより、組織的な統治や国際的な交渉が可能になりました。
問14	答え 3 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。	九州（熊本県）と関東（埼玉県）という、当時の交通手段では非常に遠く離れた2つの地点から同じ大王の名を記した刀剣が出土したことは、大和政権の支配力がその両地域にまで及んでいたことを客観的に証明するものです。一方で、この時代の支配が東北地方にまで及んでいたことを示す証拠は見つかっていないため、範囲の特定には注意が必要です。

1. 東北地方から九州地方にかけての全国各地から、有力な豪族の遺骨を集めて埋葬した場所である。
2. すべて直径10メートル程度の小さな円墳のみで構成された、庶民のための墓地群である。
3. 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。
4. 仏教が伝来した後に、聖徳太子の命令によって各地の寺院の隣に作られたものである。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 前方後円墳	3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。
問2	答え 2 ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問3	答え 1 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問4	答え 4 大和政権が、支配下に入った各地の有力者に対して支配や同盟の証として鏡を配付した状況	同じ型から作られた鏡が広範囲で見つかることは、中央の大和政権が中国から入手、あるいは国内で製造した鏡を、自らの権威を認めた地方の有力者に分け与えたことを示唆しています。これにより、大和政権を中心とした政治的な連合や支配体制が、近畿地方から遠隔地へと広がっていった背景を読み取ることができます。
問5	答え 4 倭王 武	中国の南朝に朝貢した「倭の五王」のうち、最後に登場する「武」は、稻荷山古墳の鉄剣銘文にある「ワカタケル（獲加多支鹵）大王」と同一人物であるとする説が有力です。当時の倭の王は、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうため、中国の皇帝から称号を得ようと外交交渉を行っていました。
問6	答え 2 漢字	古墳時代に大陸の進んだ技術や文化を持った人々（渡来人）が日本列島へ移住した際、儒教や仏教とともに伝えられたのが漢字です。これにより、それまで文字を持たなかった日本において、出来事の記録や政治的な文書の作成が可能となりました。ひらがなやカタカナは、後にこの漢字を崩したり、一部を取ったりすることで日本独自の文字として発展したものです。
問7	答え 4 魏 —— 呉・蜀	卑弥呼が使いを送った相手は、中国大陸の北部に位置した「魏」という国です。当時の中国大陸は、北部の魏、南東部の呉、南西部の蜀の三つの勢力が争っており、この複雑な国際情勢の中で、邪馬台国は魏との外交関係を築くことで自国の立場を安定させようとしていました。
問8	答え 1 鉄剣	稻荷山古墳から出土したこの鉄剣には、115文字に及び漢字が刻まれており、当時の政治状況や文字の使用状況を知る一級の史料となっています。刻まれた「獲加多支鹵大王」は、日本書紀や古事記に登場する雄略天皇を指すと考えられています。
問9	答え 4 大仙古墳（世界文化遺産）	5世紀の古墳時代中期に築造された大仙古墳は、全長約486メートルを誇る日本最大の古墳です。その圧倒的な規模と独特な形状は、当時のヤマト政権の強力な支配力を示すものと考えられています。2019年には、周辺の古墳とともに「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問10	答え 1 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問11	答え 4 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近）	大仙陵古墳は、現在の大阪府堺市に位置しています。この地域には巨大な古墳が集中しており、2019年には「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。岩手県の平泉や、静岡県富士山、鹿児島県の屋久島もそれぞれ世界遺産に登録されていますが、古墳時代を象徴するこの巨大古墳は近畿地方に築かれました。
問12	答え 3 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。
問13	答え 3 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問14	答え 3 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。	百舌鳥・古市古墳群は、現在の大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市に広がる古墳群です。4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の王権（ヤマト政権）の王たちの墓として築かれました。

- 問1 古墳時代の展示において、当時の有力者の墓である古墳の内部に納められた「副葬品」が紹介されています。これらの中で、被葬者の権力や権威を示すとともに、当時の中国大陆との活発な交流を裏付ける代表的な資料として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 魔除けや豊かな収穫を祈る儀式に用いられた、縄文時代の土製の人形である土偶 | 2. 弥生時代に主に近畿地方を中心に広まり、祭りの道具として使われた青銅器の銅鐸 | 3. 古墳の墳丘の頂上や周囲に並べられ、聖域を区切る役割を持っていた人や馬の形の埴輪 | 4. 大陸との外交関係や支配者の権威を示すために墓に納められた、三角縁神獣鏡などの銅鏡 |
|---|--|--|---|
- 問2 5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|---|
| 1. 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。 | 2. 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。 | 3. 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。 | 4. 東北地方から九州地方まで、各地の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。 |
|---|--------------------------------------|---|---|
- 問3 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具 | 2. 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器 | 3. 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器 | 4. 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
- 問4 5世紀中頃に造られた日本最大の面積を誇る大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）の所在地について、日本列島を4つの地域に分けたとき、この古墳が位置する場所を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|---------------------------------|-------------------------|---------------------------------|
| 1. 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近） | 2. 屋久島などの自然遺産がある、九州地方南端（鹿児島県付近） | 3. 富士山が位置する、中部地方（静岡県付近） | 4. 中尊寺金色堂などの文化遺産がある、東北地方（岩手県付近） |
|------------------------------|---------------------------------|-------------------------|---------------------------------|
- 問5 4世紀末から5世紀頃、ヤマト王権は大和地方を中心に勢力を拡大しましたが、その過程で地方の有力な豪族に対し、権力の象徴である銅鏡などを与える政策をとりました。この行為の主な目的として、当時の政治状況から考えて最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 鉄製の武器を効率的に生産するための最新技術を、各地の豪族に共有するため | 2. 全国の一律な税制を確立するために、度量衡の基準として鏡を配るため | 3. 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため | 4. 地方豪族に仏教を布教し、大陸の進んだ思想で精神的な統一を図るため |
|--|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
- 問6 古墳時代中期（5世紀）の日本において、近畿地方に巨大な前方後円墳が相次いで作られた一方で、熊本県や埼玉県という離れた地域から同一の大王名が刻まれた鉄剣が発見されている理由として最も適切なものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--------------------------------------|---|
| 1. 地方の首長たちが独自に近畿地方の技術を模倣し、政治的影響力を強めたから | 2. 九州地方の邪馬台国が全国の首長を従えて巨大な墳墓を各地に建造させたから | 3. 中国の皇帝から与えられた鉄剣を全国の首長が共有して保持していたから | 4. 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから |
|--|--|--------------------------------------|---|
- 問7 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆が大規模な土木作業に動員できるようになった。 | 2. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。 | 3. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。 | 4. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。 |
|--|--|--|---|
- 問8 5世紀、ヤマト王権の首長たちは「倭の五王」として中国の南朝へ使者を派遣し、朝貢を行いました。この外交活動の主な目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 邪馬台国の卑弥呼が魏から受けた称号と同様の権威を背景に、九州地方の豪族を支配するため | 2. 隋に対して対等な立場での外交を求め、中国の進んだ律令制度をいち早く導入するため | 3. 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため | 4. 仏教の公伝をきっかけとして、大陸の進んだ建築技術や工芸品を組織的に輸入するため |
|---|--|---|--|
- 問9 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地 で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。 | 2. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。 | 3. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。 | 4. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。 |
|--|--|--|---|
- 問10 古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものとして適切なものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---------------------------------------|
| 1. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため | 2. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため | 3. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため | 4. 班田収授法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため |
|--|---|---|---------------------------------------|
- 問11 5世紀頃、大和政権は近畿地方から遠く離れた地域まで勢力を拡大しました。各地の有力者の墓（古墳）から、当時の王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されている事実は、当時の政治体制についてどのようなことを示していますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと | 2. 征夷大將軍が派遣され、東北地方まで完全に平定されたこと | 3. 仏教の伝来によって、全国の有力者が同じ信仰を持つようになったこと | 4. 地方の有力者が、大和政権を介さず独自に大陸と外交を行っていたこと |
|---------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問12 5世紀後半の大和政権において、最高権力者が名乗った称号は何ですか。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣に、「獲加多支鹵」という人名に続けて刻まれている名称を答えなさい。 (2019年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 大王 | 2. 將軍 | 3. 執權 | 4. 天皇 |
|-------|-------|-------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大陸との外交関係や支配者の権威を示すために墓に納められた、三角縁神獣鏡などの銅鏡	古墳時代、古墳に葬られた有力者は自らの権力を示すために、大陸由来の貴重な品々を副葬品として墓の中に納めました。特に三角縁神獣鏡などの銅鏡は、中国の王朝とのつながりや、それを入手できる大和政権との政治的な結びつきを示す重要な象徴でした。埴輪は古墳の表面や周囲に立て並べられるものであり、内部に埋葬される副葬品とは区別して理解する必要があります。
問2	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。	近畿地方にある大仙古墳のような巨大な墳墓の築造には、極めて多くの人手と長い年月が必要でした。このような大規模な土木工事が可能であったことは、当時の大王が広い範囲にわたって人々を支配し、動員できるほど強力な権力を持っていたことを示しています。
問3	答え 4 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器	須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。
問4	答え 1 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近）	大仙陵古墳は、現在の大阪府堺市に位置しています。この地域には巨大な古墳が集中しており、2019年には「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。岩手県の平泉や、静岡県 の富士山、鹿児島県の屋久島もそれぞれ世界遺産に登録されていますが、古墳時代を象徴するこの巨大古墳は近畿地方に築かれました。
問5	答え 3 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため	ヤマト王権は、近畿地方を拠点として各地の有力な豪族を従属させることで勢力を広げました。王権から豪族へ銅鏡などの貴重な品を分け与える行為は、王権への服従を誓わせる対価として、その地域での支配権を公式に認めるという意味合いを持っていました。これにより、武力による制圧だけでなく、政治的な主従関係による連合体のような支配体制を築いていきました。
問6	答え 4 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから	5世紀には近畿地方を中心に大王の権力を示す巨大な前方後円墳が築かれました。また、関東や九州の地方首長の墓から近畿の大王（ワカタケル大王）の名を刻んだ鉄剣が出土することから、近畿のヤマト王権が各地の首長を配下に組み込み、全国的な支配勢力を拡大させていったと考えられています。
問7	答え 4 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。
問8	答え 3 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため	5世紀のヤマト王権にとって、武器や農具の材料となる鉄資源の確保は極めて重要でした。そのため、鉄の供給源である朝鮮半島南部での軍事的な影響力を強化することや、中国の皇帝から称号を授かることで、国内の有力な豪族たちに対して自らの王権の正当性を示すことが、この外交活動の大きな目的となっていました。
問9	答え 2 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。
問10	答え 2 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問11	答え 1 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと	大和政権は、軍事力や外交力を背景に地方の首長たちと主従関係を結び、自身の統治体制に組み込んでいきました。有力者の墓から出土した銘文入りの鉄剣などは、地方首長が大和政権に従う代わりに、その土地の支配権を保証されたという政治的な結びつきを証明するものです。これにより、当時の日本列島において広域的な政治連合が形成されていたことがわかります。
問12	答え 1 大王	5世紀の大和政権の盟主は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇にあたとされる「獲加多支鹵（ワカタケル）」の名とともにこの称号が刻まれており、当時の政治体制を示す貴重な史料となっています。天皇という称号が使われ始めるのは、さらに後の7世紀後半（飛鳥時代）になってからです。

- 問1 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。 | 2. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。 | 3. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 | 4. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。 |
|---|---|--|---|
- 問2 大和政権の性格について、それ以前の弥生時代の社会状況と比較した説明として、最もふさわしいものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 大陸からの渡来人によってもたらされた仏教と文字を政治の基盤として、中央集権的な国家を完成させた。 | 2. 銅鐸を用いた共通の祭祀を通じて、各地の小国が独立性を保ったまま、利害関係のない経済圏を築いた。 | 3. 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。 | 4. 特定の女王がまじないなどの呪術的な力を用いて、各地の小国を完全に服従させ、争いを根絶した。 |
|---|--|---|--|
- 問3 古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 土師器 | 2. 縄文土器 | 3. 弥生土器 | 4. 須恵器 |
|--------|---------|---------|--------|
- 問4 古墳時代に朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、新しい技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。（2025年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 遣隋使 | 2. 帰化僧 | 3. 渡来僧 | 4. 渡来人 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問5 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 江田船山古墳 | 2. 大仙陵古墳 | 3. 稲荷山古墳 | 4. 箸墓古墳 |
|-----------|----------|----------|---------|
- 問6 大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため | 2. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため | 3. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国風に改めるため | 4. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため |
|--|---|---|---|
- 問7 4世紀末から5世紀の山口県古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 遣唐使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした | 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した | 3. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした | 4. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた |
|--|---|--|--|
- 問8 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため | 2. 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため | 3. 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため | 4. 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため |
|---------------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|---|
- 問9 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器 | 2. 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具 | 3. 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器 | 4. 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
- 問10 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。 | 2. 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。 | 3. 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。 | 4. 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。 |
|---|---|---|---|
- 問11 古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|------------------------------------|--|---|
| 1. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。 | 2. 九州北部の防備にあたるとともに、防人として東国から徴集された。 | 3. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。 | 4. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。 |
|---|------------------------------------|--|---|
- 問12 大和政権（ヤマト王権）において、朝鮮半島から移り住んだ人々の知識や能力が、政権の運営にどのように活かされたか。当時の記録や実務に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 独自の文字を開発することで、それまで口伝のみであった日本の神話を初めて文字で記録した。 | 2. 将軍から土地の支配権を認められる代わりに、軍役や番役を果たす主従関係の基盤となった。 | 3. 九州北部の沿岸部で、唐や新羅などの外国勢力の侵攻を監視・防衛する軍事的な役割に特化した。 | 4. 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。 |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県 の 稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県 の 江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問2	答え 3 近畿地方の豪族が中心となり、各地の有力な勢力と連合することで広域的な政治支配をめざした。	大和政権は、近畿地方の有力豪族が連合して形成された政治組織です。これは、小国が独立して割拠していた弥生時代の状態や、単一の強力な王が全国を直接支配する形態とは異なります。複数の有力な勢力が「連合」という形で結びつくことで、大規模な土木作業が必要な古墳の築造や、対外的な交渉が可能になるほどの広域的な統治体制を整えていったことが大きな特徴です。選択肢にある銅鐸の祭祀や『魏志』倭人伝の記述は、大和政権が成立する以前の弥生時代の特色を指しています。
問3	答え 4 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。
問4	答え 4 渡来人	古墳時代に朝鮮半島などから日本列島へ移り住み、様々な技術や文化を伝えた人々は渡来人と呼ばれます。
問5	答え 3 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県 の 江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問6	答え 1 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問7	答え 3 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問8	答え 4 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとした。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問9	答え 3 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器	須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。
問10	答え 4 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問11	答え 3 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問12	答え 4 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。	渡来人は優れた技術者であるだけでなく、文字や計算に精通した知識人でもありました。大和政権は、彼らを「史（ふひと）」として起用し、記録の作成や、貢物（税）の管理などの高度な事務・財政実務を担当させることで、政権の統治機構を強化しました。これに対し、防人は主に東国から徴収された兵士が九州の警備にあたった制度であり、御家人は鎌倉時代の武士を指すため、時代や役割が異なります。